

## 実践⑤ 伊敷台小学校朝の読み聞かせグループ「いちよう」（鹿児島市）

とある水曜日の朝9時頃、伊敷台小学校のボランティア室に、各教室で朝読書（読み聞かせ）を終えた保護者と卒業生保護者が集まります。読んだ絵本、てあそびのわらべうたとともに“子供たちの反応・気づいたことなど”記録簿の欄が埋まっています。次回読む本を棚から配本し、急いで帰る人、しばらく歓談する人、わらべうたをおさらいする人…。ここ十数年続いている風景です。



記録の風景

始まりは2007年(平成19年)、ある転入生のお母さん。前籍校で朝読書の時間に読み聞かせをされていた経験から「伊敷台小学校でも、わが子のクラスで読めたらな…」と軽い気持ちで、親子読書会で出会った仲間と共に、朝の読書タイムの時間に読み聞かせをスタートしました。翌年度(平成20年)からは、司書の先生を中心に先生方の理解と協力を得て、全学年で活動を開始しました。グループ名は校章に描かれている「いちよう」から名付けました。



朝の読み聞かせの様子

新しいメンバーが活動しやすいように読み方や季節のわらべうたの資料を配り、練習し、打合せや勉強会を重ね、共通理解をしています。読み聞かせの選書は、古典といわれる絵本を中心に、詩、かぞえうた、ことばあそび、かがくの絵本などを学年ごとに選んでいます。中学年までに日本の昔話を、5年生から世界の昔話を、6年生には幼い頃に読んだ懐かしい絵本も届けるように心がけています。

新年度、転入生が教室に案内されるまで別室で待機している間を利用して、おはなし会を開いています。代表自身が転入生だった経験から、子供たちの心細さを少しでも和らげることができたらという思いで始まりました。ここで出会い、仲間になった保護者も多数います。



転入生への読み聞かせ

また、ボランティアにこだわるのも子供たちへの思いが一番大切にしたいからです。時が経ち、メンバーが入れ替わっても、設立当初の思いをそれぞれが理解し、引き継いで、繋いでいきたいと思えます。

2010年(平成22年)には、学校支援ボランティアに登録しました。地域コーディネーターが学校と連携し、読み聞かせの日程や学年等の調整をしてくださるので、わたしたちの活動も円滑に進められ、非常に助かっています。学校の先生方のご理解、ご協力があればこそこの活動です。

この地域の仲間で、子供たちに豊かな本を届け、成長を見守る。この場所と時間を大切に守っていききたい。それが私たちの心からの願いです。